

歓喜院鐘楼

歓喜院鐘楼は、庭園入口付近に建てられています。そこに納められている大きな青銅製の鐘を撞木（しゅもく）でたたくと、付近の町々にその音が響き渡ります。1 日の始まりと終わりを告げるため、鐘は朝と夕に 2 度つきます。現代的な警報システムが開発される以前は、台風や洪水などの差し迫った災害の警告手段として、地域で重要な役割を果たしていました。除夜の鐘の大晦日には、夜中に向けて参拝者が順に鐘をつきます。傲慢・残虐・欲といった 108 の煩悩をとりはらうため、鐘は 108 回鳴らされます。除夜の鐘は日本各地の寺院で行われます。

歓喜院鐘楼は、本殿完成の翌年にあたる 1761 年に初めて建設されました。大正時代（1912 年～1926 年）には、鐘楼の位置を高くするため、石とコンクリートの基壇が追加されています。歓喜院鐘楼は登録有形文化財です。